

文化映画研究

電子書籍版 全5巻

[監修] アーロン・ジェロー

[解説] アーロン・ジェロー

佐藤 洋 森田のり子



1930年代後半、日本映画界の中核的な存在となつた「文化映画」。国家プロパガンダなのか？はたまた、真実の記録なのか？その討論の中枢の場として機能した『文化映画研究』全号を収録。

ProductID	書籍-タイトル	書籍-巻次・年次	書籍-シリーズ名	プリント版出版年月	「同時アクセス数1」の販売価格(本体価)	「同時アクセス数3」の販売価格(本体価)
KP00053585	文化映画研究 第1巻第1号（1938年3月）～第1巻第6号（1938年12月）	第1巻	文化映画研究	202109	¥17,380	¥34,760
KP00053586	文化映画研究 第2巻第1号（1939年1月）～第2巻第6号（第5号）（1939年6月）	第2巻	文化映画研究	202109	¥17,380	¥34,760
KP00053587	文化映画研究 第2巻第7号（第6号）（1939年7月）～第2巻第11号（1939年12月）	第3巻	文化映画研究	202109	¥17,380	¥34,760
KP00053588	文化映画研究 第3巻第1号（1940年1月）～第3巻第6号（1940年6月）	第4巻	文化映画研究	202109	¥17,380	¥34,760
KP00053589	文化映画研究 第3巻第7号（1940年7月）～第3巻第11号（1940年12月）／解説	第5巻	文化映画研究	202109	¥17,380	¥34,760

〒153-8504 東京都目黒区下目黒3-7-10

株式会社紀伊國屋書店 デジタル・流通事業本部 デジタル情報営業部
ict_ebook@kinokuniya.co.jp 電話03-6910-0518

【本書の特色】

● 文化映画論壇の中核

『文化映画研究』は、大村英之助が1935年に創立した製作会社・芸術映画社の関連雑誌として創刊。映画法執行により文化映画上映が映画館で義務付けられ、文化映画が国家と映画の折衝の場となった当時、文化映画は国家プロパガンダなのか、真実の記録なのか等、多様な面を持つ文化映画を論じるための中核の場として機能した。

● 批評、技術から文化性まで、幅広い内容

内容は芸術映画社の機関誌の範疇を遥かに超え、自社作品の紹介のとどまらず、他社の作品の批評、撮影や録音から興行まで、記録映画やアニメーションを含む広い意味での文化映画の現状と実践、そして映画の本質や社会性・文化性についての論考も際立っている。

● 錚々たる執筆陣

文化人や映画評論の大家等が文化映画のみならず、映画とは何か、とりわけその現実性について討論。

文化映画関係者：円谷英二・厚木たか・石本統吉・萩原耐ほか 農村文学：和田伝・鎌田研一・藤森成吉ほか

映画音楽：早坂文雄・深井史郎・服部正ほか 文化人：柳田邦男・佐多稻子・村山和義・佐々木基一・三浦つとむほか

映画論壇：津村秀夫・上野耕三・関野嘉雄・亀井文夫・三木茂 等々豪華執筆陣。

● 最終巻末に詳細な解説を附す

【本書の内容から】



関連タイトルのご案内（価格は本体価格です）

● 映画芸術研究 全9巻揃い販売価格

同時アクセス1 ¥204,600 同時アクセス3 ¥409,200

● 日本戦前映画論集 (ProductID:KP00027007)

同時アクセス1 ¥10,560 同時アクセス3 ¥21,120